JART 企画

Woman Serendipity 2019 報告

チーフコーディネーター　新潟手の外科研究所病院　風間 清子

2018年度のWoman Serendipityの意見交換およびアンケート結果より，勤務が忙しいとか，育児などで，学ぶ時間を作るのが難しい・どう時間を作ればよいのかという声が多く聞かれました．これらを踏まえて，2019年度のWoman Serendipityのテーマは『自分時間の使いかた・作りかた』といたしました．私たちの仕事には学んでいくことは必要不可欠です．しかし，忙しい毎日に追われて学ぶ時間や自分らしい時間を作るのは大変です．どうしたら自分の時間を生み出し自分らしく使えるのかを，2人の演者から各々の工夫や悩みを話していただき，その後『自分時間の使いかた・作りかた』について会場の皆さまと意見交換を行いました．意見交換では，会場にマイク係を配置し挙手が無くても参加者の声を拾い上げ，また，コーディネーター及び演者と参加者全体で自由に発言できる場としました．演者のお一人のJCHO仙台病院の星由紀子さんからは，数年前にライフスタイルに変化があったことで今までの時間の使いかた・作りかたが変化したことや工夫をお話していただきました．もうお一人の演者は，現在子育て世代の太田綜合病院附属　太田西ノ内病院の関根理沙さんから，日々忙しいなかで工夫していること・悩んでいることなどをお話していただきました．

Woman Serendipity 2019は，現在大学4年生の方の参加や，子育て世代の男性技師からの質問，子育て卒業世代からの質問もあり，会場で様々な意見交換ができました．参加数は今までで一番多く，40部用意したアンケート用紙と資料（第35回日本診療放射線技師会においてポスター発表した内容）が足りなくなるほどでした．アンケート用紙の回収は34人でアンケートの有効回答率は85%でした．Fig.1は，年代別性別参加状況を示します．

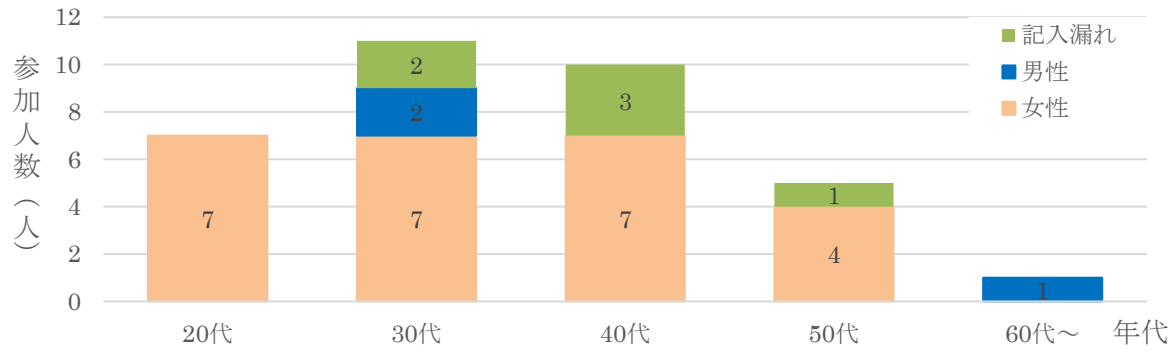

Fig.1.年代別性別参加状況

意見交換の中では，子育て世代の夫婦が技師同士の場合，お互いに参加したい勉強会や学会が重なるときにどうしたらよいのかという問いに対し，鍵の施錠はしっかりした上で，子供たちにお留守番を頑張ってもらうためのオヤツの工夫や，宿題を含めた課題を与えるといった意見があがりました．子供が病気のとき，男性技師も子供が病気だから帰っても良いですかと言っても良いでしょうか，また，そういうことを言いづらいってありますかという問いに対し，某病院の技師長から，スタッフには自分の体調が悪いときや家族の体調が悪いときには，いつでも帰っても良いよと伝え，そんな状態では仕事に集中できないだろうから『お互いさま』の精神で行っている，という素晴らしい意見を聞くことができました．このような考えの管理職が増えれば，働きやすい職場となると考えます．

アンケートの結果より，今回のテーマに関し『良かった』が82%，『役に立った』が74%という参加者からありがたい評価を頂きました．男性技師にこそ聞いてほしい内容だった，仕事と家庭の両立がずっと悩んでいるテーマなので，もっとこういう機会があれば積極的に参加したい等のご意見を頂きました．このようなご意見から，来年度もソリューションカンファレンスWomen Serendipityの果たす役目があると実感いたしました．ぜひ福島でも開催できるよう実行委員の皆さまにお願い申し上げます．

第34回，第35回日本放射線技師会学術大会で発表しましたPDFがありますので，ご希望の方は風間kazakiyo@tenogeka.comまでご連絡ください．